

基本理念	目指す方向	推進項目	施策または事業																		
			委員①	委員②	委員③	委員④	委員⑤	委員⑥	委員⑦	委員⑧	委員⑨	委員⑩	委員⑪								
学びあいがつづく健康なまちづくりを高められるまち	1 誰もが一歩を踏みだせるまち	① 情報提供の充実		①市民活動団体について詳細な紹介がなされているが、関わり方などのような関わり方が求められるのかなどが分からない。第3次事業を更に発展させてほしい。情報提供の方法も引き続き検討してほしい。(ウ) ②毎月ボランティア情報を市のHP、多摩ポラセンなどを通じて発信し申込みをできるようにする。(イ)		毎日行われている活動をネットで公開(イ)		各世代のほしい情報がいつでも手軽に手に入る環境づくり。(SNS、アプリ、AI等を利用したい)(イ)		・地域で活動している団体の情報の発信 地域で活動する団体の事業やイベントをSNSなどで相互に発信し合えるシステムを構築する。 ※行政からの情報提供には限界がある。当事者団体がホッと情報を発信し合うことができれば、それを見た市民も興味を抱くと思う。		広報活動の徹底：1 地域3誌の広報発行により情報提供の充実させる。(コミュニティセンターと地域の連合会及び各自治会・管理組合との広報月間誌発行により徹底した情報伝達を行う。(活動中)		●市民活動情報ポータルサイトの新設(or改善) 一他市のサイト(例はちコミねっど)を参考に地域デビュー手引書と市民活動検索サイトの連動 →活動場所の紹介、補助金情報、市民バンクなど		情報配信サービスの開始 登録するとその情報にアクセスできる関係する情報が配信されてくる(イ)		たま広報のレイアウト改善(生涯学習をまとう、細目に健康、文化、芸術、スポーツなど分かりやすくし、保存版にする。			
		② 相談体制の充実	「居場所」のネットワーク化と、SNS利用も念頭に合わせたワンストップの相談体制の導入		福祉なんでも相談(ウ)		市役所における市民相談事業(秘書広報課)(ア)					地域福祉推進委員会(1)：地域の問題、自分の悩み事、疑問点をテーマとしてワークショップを開催し、改善できる問題はそこで回答し、即答不可の場合は皆で話し合う。(活動中)				一人一人の人生の中に発生する悩みを解決するため、経験者の声を知り活かす場の提供(イ)		生涯学習課専門の窓口を設け、わかりやすく一歩を踏みだせるようにする。(専門の相談員の配置)			
		③ 学習の場や機会づくり	生活文化や地域文化を充実する観点から、世代間の対話・交流を促す活動の場や機会を設ける、あるいは応援する。	①集まれる場所を用意する。(ウ) ②座学型から座学・グループワーク型、グループワーク型へプログラム、施設のリノベーションを進めていく。(ウ)		これ以上する必要なし		自宅でも学習できるオンライン講習(イ)		・「居場所」づくりの促進・支援 多世代が交流し、学び合える機会をつくるため、住民主導による気軽に使える「居場所」を、地域ごとにつくるよう支援する。 ※公民館やコミセンにはそれぞれ役割があるが、もっとハードルの低い、柔軟に使えるような「場」が欲しいという要望は多い。先日のワークショップでも、数人からそうした意見が出されていた。 ※空き家を活用するなどして、行政の支援はその家賃の一部を助成する程度に止め、運営は、地域にそれに対応できる責任ある団体を組織してもらい、そこが担う。		コミュニティセンターの活用：コメントは省略。(活動中) アークードカフェ：シャッター街を利用し昼食とお茶会、単純であるが広範囲で賑わいの場が作れる(活動中)		●旧北貝取小学校跡地施設の整備との関連づけ ●バルテノン多摩の改修、図書館整備との関連づけ →これらの場の整備を生涯学習施策の中に位置づける		今ある福祉施設活動時間終了後に別交流実行取り組み(イ)		朝のラジオ体操、太極拳などの推進(ボランティアで定期的開催し、参加は自由、屋外での活動のため通り掛かった時でも参加できる。また、小学生、中学生参加ではスタンプをため景品と交換など、多世代の交流の場になる)			
	2 人と人をつなぐ	④ 地域活動・ボランティア活動・NPO活動への支援																			
		⑤ 人材育成への支援		児童・生徒・学生の地域社会へ参画の機会を創やす(多世代交流・協働)(ウ)		必要なし															
		⑥ 「健康」な人生に向けた学びの充実	市民企画(提案)型の講座(事業)制度の導入	大学等教育機関との連携によるリカレント教育プログラム開発(ウ) 多様性を認めよう学習プログラム、学習支援(ウ)		個人的にすることが基本															
	3 いっしょに学びあえる自分高められるまち	⑦ ライフステージ・ライフサイクルに応じた学習メニューの充実		各世代が生活者の視点から学ぶ、学びあえる事業		個人的にすることが基本															
		⑧ 誰もが学べる環境づくり		特に就労支援事業(ウ)		個人的にすることが基本															
		⑨ 学びを通じた市民協働の推進	多様な市民による参加や共同作業をおして、芸術文化やスポーツ分野の価値を創造するためのイベントを、年ごとにテーマを変えて企画実施する(現代の「祭り」のイメージ)。																		
	4 学びあいと協働でかかやくまち	⑩ 家庭・学校・地域の連携・協働による学びの推進		①コミュニティセンターとの連携(ア) ドバイスや情報提供等)のため公民館職員体制の充実(ウ)																	
		⑪ 持続可能な元気な地域づくり	SDGsは地球規模の課題でありながら地域の課題でもあることに着目し、多摩市にふさわしいSDGsの達成に向けて、社会教育の場や機会を活用し参加型の課題解決学習の場を設ける。																		
		⑫ 生涯学習推進体制の充実		各課と情報共有、連携による市民の学習支援体制づくりを進める。		必要なし															

・上記の推進項目に振り分けられない施策や事業(新たにこんな施策や事業があったらいいなと思うものも含む)

その他 施策または事業	その他 施策または事業	その他 施策または事業
第3次多摩市生涯学習推進計画の施策の仕組みを見直し、さらに発展させてほしい。	すべての事業には、予算が必要なので優先順位をつけて実施することが必須。今後は絞り込み・整理するべき。	役所内各課の横のつながりを密にし、協力出来る体制になってほしい。

その他 施策または事業	その他 施策または事業	その他 施策または事業
多摩市名所めぐりラリー：多摩市を良く知っていただき健康市民をアピールして頂くが目的。写真・場所・コースと交通手段を報告して頂き、内容を審査し阿部市長より賞を贈呈する。(個人ではなく数名のグループ行動が望ましい)	すでに取り組んでいる活動が多いので、メニューを増やすだけでなく、既存の活動の再整理や統合などが重要だと考えます。	福祉施設と学童施設の融合した法律を度外視した環境を提供(イ)

【施策や事業の範囲】
(ア) 現在多摩市で行っている施策等で、第3次の事業一貫しないもの
(イ) 新たにこんな施策や事業があったらいいなと思うもの
(ウ) 第3次の個別施策や事業等に記載があるうち、特に重要だと思ふもの

すでに動いている大規模なまちづくり施策との連携を考える必要があります。生涯学習計画の中にその視点を入れるとともに、まちづくり施策の中に生涯学習の観点を入れることも重要です。(両者に齟齬がないように必要な視点が盛り込まれるように)

PDCAサイクルが重要。特に実行した後の評価での問題点を把握し改善をこめにする。評価にあたってはアンケートのみならず、現状把握のため視察も含む。